

第3回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 令和3年5月25日（火）午後7時00分～9時00分

【出席者】 門脇史明委員、谷本久志委員、森田充浩委員、松下洋平委員、伊賀守委員、田頭誠志委員、酒井紀子委員、村井洋平委員、菊池祐委員

【行政側】 富田地域振興局長、細川町民生活課長、川上企画課長、大元まちづくり推進室長、大河原文化的施設整備推進室長、武田企画課副課長、畦地町民生活課副課長、上川地域振興課副課長、都築地域振興課係長、井口地域振興課主査、西尾文化的施設整備推進室主査、河原まちづくり推進室主任、松下文化的施設整備推進室主任、

【傍聴人】 なし

【議事及び質疑応答】

○挨拶：富田地域振興局長

○新年度に入り最初の会につき、局長から異動職員の紹介があった。また、前日に県内の新型コロナウイルス感染症対策の警戒レベルが「特別警戒」に引き上げられたため、これに関する情報提供等があった。

(田頭誠志会長)

それでは、議事に入る前に本日は文化的施設整備事業の説明をしたいということで企画課から数名来てくれているので、これに関しての時間を取りたいと思う。

※大元まちづくり推進室長および西尾文化的施設整備推進室主査から配布資料に基づいた説明あり。

(田頭誠志会長)

ここまでの説明を聞いて、委員から何か質問があればお願いしたい。

無ければ、少し私から質問をしたい。令和2年度に文化的施設建設反対の嘆願書が受付をされたとのことだが、反対署名の人数や内容についてももう少し詳しく伺いたい。

(大元まちづくり推進室長)

嘆願書は、今年の3月上旬に受け付けた。現段階で氏名の重複や同一筆跡などは未チェックだが、761名の署名数となっている。内容としては、文化的施設の建設予定地を再考してほしいということと、予算規模のこと。この嘆願書への回答は文書で行おうと思っている。

(田頭誠志会長)

今日は企画課から多くの職員が参加してくれている。折角の機会なので、他に質問やご意見は？

(村井洋平委員)

資料中、具体的な5つの役割について記載があるが、平面図を見ると他市町村にあるような普通の図書館と変わらないように見える。ここで触れている具体的な取り組みとは？

(西尾文化的施設整備推進室主査)

ここを説明するのが難しいところ。⑤のSTEAM（スティーム）教育に基づく試行錯誤の場、というSTEAMがじゃあ一体なにかと言うと、科学・技術・工学・芸術・数学の5つの英単語の頭文字を組み合わせた造語。知る（探求）とつくる（創造）のサイクルを生み出す、分野横断的な学びのこと。課題を自ら見つける力、物事をさまざまな面から捉え解決する力、新しい価値を創造する力が身につく教育と言われている。しかし、ここに記載の①～⑤までの具体的な5つの役割で、皆がやりたいことすべてカバーできるとは思わない。文化施設はすでに窪川四万十会館があり、そのの

ホールで各種コンサートを楽しむこともできる。そういった既存施設もあるなかで、今度新しく造ろうとしている文化的施設では何か新しい仕掛けを考えたい。

町では今年2月、ソニー・グローバルエデュケーションからロボット・プログラミング学習キット **KOOV** (クープ) の寄贈をいただいた。今後、この **KOOV** を使ったワークショップイベントなどもやってきたいと思っているので、ぜひご参加いただきたい。

(谷本久志委員)

場所の再考、という点で小学校の跡地(廃校)とかは使えないか？

(西尾文化的施設整備推進室主査)

行きたくなる環境を作るということを、あまり疎かにはしたくない。現状、子どもが集える場があまりないと感じている。行ってみたい、と思える場を作りたい。例えばお気に入りのカフェに行くような場面で、なぜそこを選んだかという理由はあるはず。単にコーヒーが飲めれば良い、あまり魅力的と感じない空間でも構わないという人は少ないはず。そして、学校跡地をリノベーションするよりは新たに作る方が結果的に予算は安く済むということもある。

(谷本久志委員)

あまりイメージが湧かないので、文化的施設の他事例を知りたい。

(西尾文化的施設整備推進室主査)

明石市さんは複合型施設があり、施設の利用だけでなく各種サポートを受けることができる場を提供している。コンセプトは出会い・学び・楽しみ・活かす複合型交流拠点。明石駅前であり、子育て支援施設にも近い。ちなみに明石市は子育て支援にかなり力を入れており、子育て世帯の転入超過が起こっている。また、福島県須賀川市にある市民交流センター **tette** (てって) も成功事例のひとつ。市民活動の支援・世代や分野を超えた市民交流、そして震災で被害を受けた市街地中心部ににぎわいを取り戻すことを目的に建てられた。いずれもホームページ等で情報を得ることもできるので、ぜひ多くの方に見ていただきたい。

(田頭誠志会長)

新しく建てた方が環境が整うということ？

(西尾文化的施設整備推進室主査)

現在の町立図書館・美術館は、元法務局だった。法務局の目的で建てられたものなので、収蔵環境としては厳しいものがある。

(大元まちづくり推進室長)

自分からは文化的施設の建設予定地についてお話をさせていただく。この予定地は、隣接で岩本寺があったり古民家カフェ半平があり、文化ゾーンとしてゾーニングしているエリア。ここの連携が機能することで町は市街地活性化を狙っている。当初、建設候補地は複数あったしそれらも比較検討してきたが、最終的に現在の建設予定地(茂串町)に絞ったところ。

(菊池祐委員)

他の複合施設について伺いたいが、それらが建てられた地域の満足度はどれぐらいある？今後も色々な協議があると思うが、住民から見た満足度というのが大切だと思う。それから、建設予定地を今から変更するという選択肢はあるのか。

(西尾文化的施設整備推進室主査)

満足度は重要と考えている。イメージとして、機能が近いと思うのは高知市のオーテピア。四万十町にあれだけの規模のものは難しいと思うが、図書館機能のほか建物の中にみらい科学館があったりして幅広い年代の人が楽しめる。四万十町が計画している創造体験の場と近いのでは、と思う。

(大元まちづくり推進室長)

建設予定地だが、3か所から選定した。行政としてはこれまでの経緯から、現予定地で理解いた

いたと思っているが、絶対ではない。今後の文化的施設の動向は、皆さんへも開示していきたいと思っている。

(田頭誠志会長)

情報をまた教えてほしい。今後、9月議会に向けた動きも出てくると思うので。

(松下洋平委員)

この文化的施設が完成したら、町内の雇用はどのように考えている？

(西尾文化的施設整備推進室主査)

雇用というのは…文化的施設の中で働く職員のこと？これについては、サービス内容によって変わると思っている。いま中身を詰めている段階。なのではっきりした回答を今日の時点ではできないが、先日町議員と協議の際、提出したプラン段階で言うと例えば（現在の町立図書館・美術館）スタッフと比較して4人増員。これは本当にざっくりした人数なので、その点だけご理解いただきたい。現在の人数は、館長1名、副館長1名、司書1名、それ以外の会計年度任用職員が3名、シルバー人材センターから1名。ただし館長と副館長の2名は兼務職員。おおよそ実働7名程度。新しい文化的施設の館長を専任にするか兼務にするか、まだまだそのへんはこれからの協議。

(大元まちづくり推進室長)

館長、副館長を専任なのか兼務なのか、またサービス内容によって雇用は大きく変わる。が、いずれにしてもこのままでは人が不足している。もし仮に、十和に文化的施設を建てるなら人も変わってくるだろうし、やり方によって変動する。

(田頭誠志会長)

色々なご意見が出ている。当初、この文化的施設のテーマについて話し合うのは30分と思っていたが、折角の機会なのでこの枠は時間を延長する。その他、ご意見等ないか。

(村井洋平委員)

配布資料中、サービス計画の策定において十和地域との連携調整とあるが、来年3月にサービス計画策定の予定になっている。ここで一定、十和のほうをどうするかという結論を出すことになる？

(大元まちづくり推進室長)

十和地域の在り方については十和地域振興局と連携して検討することになっているが、イメージはふたつ。ハードで何かできることと、ソフト対策ですぐにできること。ソフトのほうはすぐにできるなら、取り組みたいと思っている。

(村井洋平委員)

予算計上は？

(大元まちづくり推進室長)

サービス内容をソフト面で充実できそうなことなら、9月とか12月（議会）予算計上して…もしかしたら、予算を伴わずともできることがあるかもしれない。

(田頭誠志会長)

ICTは進んでいる。遠隔地でもサービス向上できると思う。

(大元まちづくり推進室長)

先の将来のことと思っていたが、現実としてドローンによる輸送も身近になってきた。国の事業採択のなかで、町と事業者が連携して実証することになった。予想してなかったところで、現実が見えてきている。ただこれは、だからこうなると結果に直結することでもないので半分程度で聞いて欲しい。

(田頭誠志会長)

SDGsと絡めて企画課で考えてみたら、と思う。十和でも中心市街地の空洞化が進んでいる。物事を考える良いきっかけになると思う。

(森田充浩委員)

この図面を見て思ったが、四万十町は広いのでどこに行くにも車が必要だがこの駐車スペースで足りるのか？

(西尾文化的施設整備推進室主査)

流動的だが、現在のところ駐車台数は30台で想定している。この建設予定地周辺には町有地もあり、これらを足すとかなり多くなるのではと思う。この辺は、また整理する。図面のなかで中庭が広いと感じた人がいるかもしれないが、アートギャラリーと交流コーナーの窓は開放が可能で、イベント時にも使えるように設計されている。

(菊池祐委員)

十和の在り方だが、自分は現状で実は満足している。大正分館にはよく本を借りに行くが、そこに無い本は取り寄せてくれる。なかなか見つからない本も、県外まで検索を広げて探してくれる。だからサービス面では満足。逆に、こうなったらいいんじゃない？っていう十和のビジョンが行政にある？方向性を教えて欲しいと、常々この話に関しては思っている。

(西尾文化的施設整備推進室主査)

図書の部分に関して、欲しい本の取り寄せ・検索相談等のレファレンスサービスは足りているというご意見だった。行政としては、町の総合案内…そういう機能を強めたいと考えている。

(大元まちづくり推進室長)

施設ありきではないと思っている。図書に限ると、必要ないかもしれない。そういう意見もある。行政内部も正直、答えを持ち合わせていない。ワークショップや協議会など、十和の声を拾ってもよいかも。まさに今、考えているところ。

(菊池祐委員)

まあ、このまちづくりの会も十和地域の持続的な発展を考える場なので。この文化的施設には4つの機能を持たせるという事だが、どうしても図書館メインで考えてしまう。コミュニティ機能を集う場だと考えると、どうしてもそれが文化的施設と繋がらない。範囲が広すぎて、考えにくくイメージが湧きにくい。

(西尾文化的施設整備推進室主査)

正直なところ、自分たちもそこに頭を抱えている。言葉で伝えるのが難しい。県外の施設「tette」のYouTube動画も見れるし、武蔵野プレイス（図書館、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の各機能を併せ持つ）なんかも複合施設の先例であるので、そういうのを見てくれたらイメージが湧くのかもしれない。

(田頭誠志会長)

グラウンドビジョン（計画などの骨組みとなる理念）があれば意見しやすい。

(西尾文化的施設整備推進室主査)

パブリックコメントをやろうとしている。色々ご意見をいただけるほうが自分たちもありがたいのでぜひお願いしたい。

(大河原文化的施設整備推進室長)

文化的施設をキーとして、大正・十和方面へ人をどう流していくのかという視点も大切だと思う。この施設で出来ることを地域にどう展開していくか、そういうことを考えている。まだまだ自身の知識が足りてないが、私たちの「幸せ感」が上がればと思っている。

(田頭誠志会長)

合併特例債を使える時期も限られている。スピーディーに動くことが大切と思う。ここまでだいぶ文化的施設についての時間を使ったので、今日予定していた議事のうち（１）市街地再生基本構想における地産地消・外商・観光振興ゾーンについては、次回の会に延期する。それではここで休憩をとって、続きは議事（２）から始める。

— 休憩 —

（田頭誠志会長）

再開する。それでは、議事（２）について事務局からの説明をお願いします。

（井口地域振興課主査）

※議事（２）旧小鳩保育所の跡地利用について、資料に基づき説明

（田頭誠志会長）

地域としても、遊休施設が増えているなかでのんびりやっている場合じゃないと思う。走りながら軌道修正していくことも必要だと考える。

（富田地域振興局長）

説明のとおり、県はまず先に町に具体的な計画の提示を求めており対応が非常に硬い。施設改修から10年以上経過しているので、弾力的に再利用を考えたい。このまま県（幼保支援課）とメールでやりとりをしても進まないの、近々直接会いに行こうと思う。

旧園舎は、現実的に解体撤去することはかなり厳しいとみている。ご存知の通り、進入路が狭くダンプトラックは入ることができない。やろうとしたら仮設道を作らなければならないが、かなり高額になることが予想されるため、現実的ではない。

（酒井紀子委員）

旧園舎は、耐震基準はどうなっている？

（田頭誠志会長）

耐震基準は（先日まで子どもたちが通っていたので）新耐震基準はクリアしていると認識している。

（酒井紀子委員）

小鳩保育所の園児らが先日、旧園舎まで歩いて遠足に行き、すごく楽しかったらしい。現地で日よけをしようと思えば旧園舎が残っているおかげで、そこで涼める。移転先の新園舎は、まだ新しいので周辺の草刈りの手間は無い。ここからは提案だが、旧園舎周辺の草刈りを保護者がするので、遊具を使わせてほしい…という要望を提案してよいか、今後予定しているPTAの会議で発言しても良いだろうか。旧園舎の周辺住民は、あまりにも人けが無くなったことでこれまでおらかだった家の施錠を、昼間でもかっちりやるようになったと聞く。

（田頭誠志会長）

その草刈りを継続していけるのか、というのがポイントだと思う。有志のボランティアだと、いつか途切れるのではないか。そして、遊具を継続して使わせてくれというのならそれらの整備点検は必ず発生する。

（村井洋平委員）

所定の手続きを踏んだうえで、借りてしまえば良いのでは。

（酒井紀子委員）

トイレや水はどうなる？

（富田地域振興局長）

町がいったん支出して、使った人にあとでお支払いいただくという方法があるのではないかと。

(田頭誠志会長)

遊具も町に管理してもらって、公園として使うのであれば町経費で(光熱水費を)みるというの、ひとつの方法だと思う。

(富田地域振興局長)

色々方法は検討できるように思うが、まずはこんなことで使ってみたいという提案をお伺いしたい。

(田頭誠志会長)

これに対するご意見は。

(松下洋平委員)

各部屋ごとの貸出とか、園舎1棟まるまる貸出とか、行政側の案はあるか。

(富田地域振興局長)

現段階ではまったくの白紙。

(松下洋平委員)

利用希望者と協議の上、柔軟に対応することで大丈夫ではないかと思う。

(酒井紀子委員)

団体じゃないと貸し出しは難しい？

(富田地域振興局長)

正直なところ、行政としてはどこかに核(代表者等)がほしい。

(田頭誠志会長)

役場職員も年々、特に局の職員は減らされておりたとえここを公園にしたとして、その管理に一人配置を求めても恐らく受け入れてはもらえないだろう。近年、熱中症がよく話題に取り上げられる。公園で遊んで、疲れたら園舎のなかでお弁当を食べたりちょっと休憩をするとか、雨の日も室内で遊べるような全天候型の公園があればいいのかな、と思う。

そのなかで、不定期に(園舎をつかって)イベントをするのも良いのではないか。

(酒井紀子委員)

ファミリーサポートセンターの取り組みが、まだ十和地域では浸透していない。旧園舎をつかって、子どもを預けて一時的に見てもらうなどの支援を受けられたらいいなと思う。

(伊賀守委員)

管理者がおる…だったら借り手の方も、借りやすい。考えておかなければならないことは、遊具で怪我をしたらどうするか。また、その管理者が辞めたらどうなるか。昔みたいに例えば青年団がいたらいいけど、借りるにしても代表者は必要と思う。

(門脇史明委員)

自分は、さっさと公園にして町が責任をもって管理してほしいと思っている。早く平日でも解放してあげたほうが良いと思う。

(富田地域振興局長)

そのことと、次のステップとして使い方を聞きたい。

(田頭誠志会長)

建物内のトイレを使うことは必ず必要。大人用に改修も要ると思う。

(酒井紀子委員)

窪川地域の B&G に子どもを連れて行き水泳の習い事をさせたり、またダンスの習い事をさせたり

している保護者はこの十和地域でも存在しているが、往復2時間もかかって大変な労力。この十和地域にそういう場所があれば良いのに。何に再利用しても良いのなら、習い事のスペースにしてほしい。公園とか広場にしても、最終的には「園舎を使いたい」になると思う。

(田頭誠志会長)

トイレと休憩スペースは欲しいので、それで県へ聞いてみてほしい。(事務局へ)

それで旧小鳩保育所が早急に再利用できる道を模索してほしい。

だいぶ終わりの時間が近づいてきた。議事の(3)その他で何かご意見はないか。もし委員から無ければ、行政の方から情報提供がひとつあるそうなので、聞きたいと思う。

(富田地域振興局長)

※配布資料「泉衣料株式会社の十和工場撤退後の状況」に基づき説明

(田頭誠志会長)

お聞きいただいたとおり。行政からの情報提供として受け止める。

それでは時間になったので本日の会はこれで閉会とする。次回もよろしくお願ひしたい。

— 終 了 —